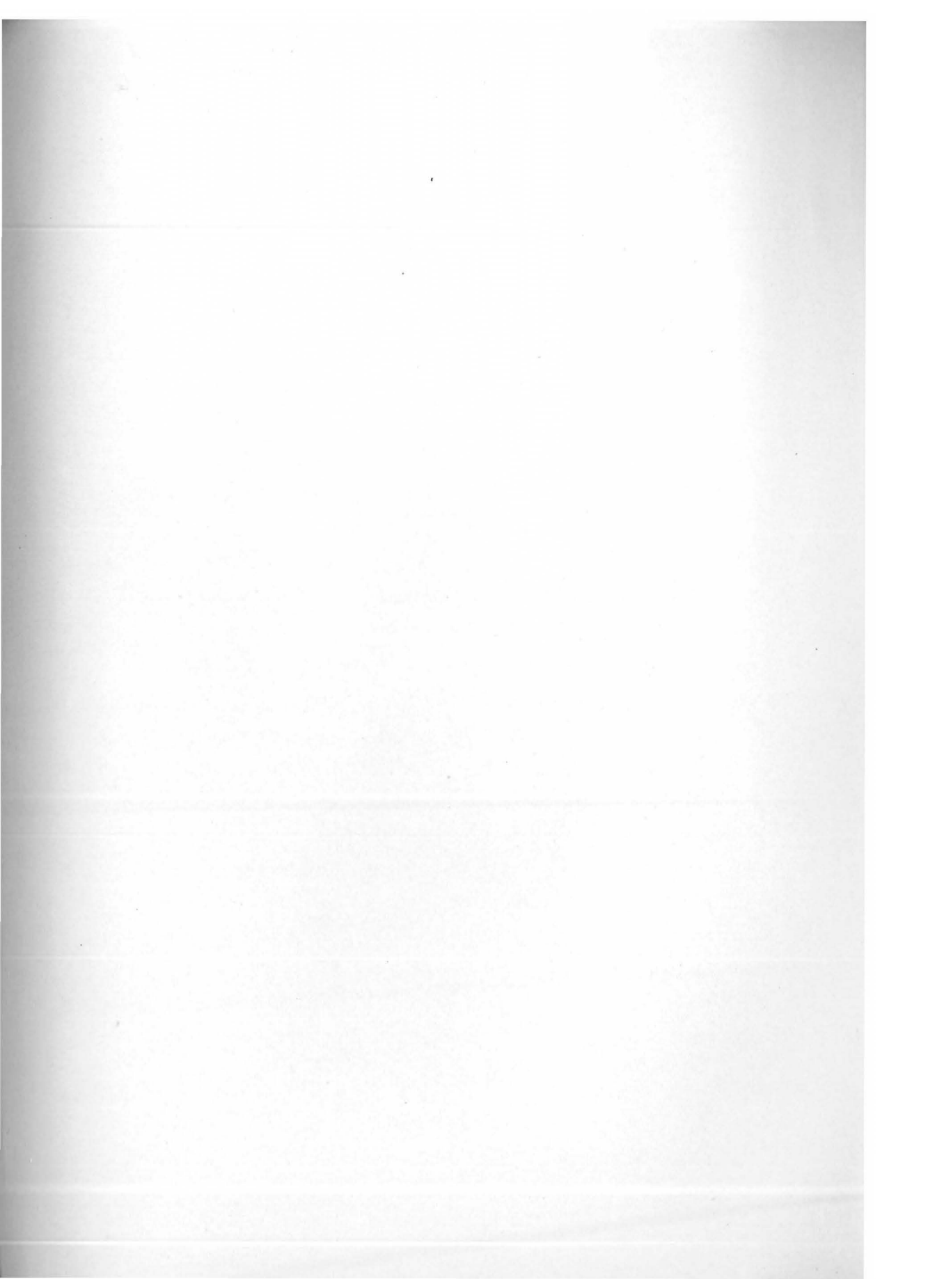


狹山市文化財調査報告 IV

狹山市関係歴史略年表

1 9 7 3

狹山市教育委員会



ま え が き

この「狭山市関係歴史略年表」は、狭山の歴史を調べたり考えたりする上での参考資料として発行するものです。

郷土の歴史を研究し、各時代に生きた人々の息吹を現代に蘇えらせることは、とりもなおさず、現代に生きる私たちの生き様を考える糧となるものでしょう。しかし、この私たちの郷土・狭山市の歴史はまだまだつづさには解明されていませんし、私たちの確かな共通財産としては『入間川町誌』（昭和30年発行絶版）と『郷土誌ほりかね』（昭和46年発行）の二著と若干の文化財関係報告書があるのみです。狭山市の歴史を研究しまとめる課題は、あけて後日を期す以外ありません。そのため、この「年表」がさゝやかな捨石となれば、本小冊子の所期の目的は十分達成されたと言えますでしょう。

この「年表」は、文化財調査委員の方々の協力を得て教育委員会社会教育課の手でまとめたものです。各事項が十分な検討を加えられている訳ではありませんから、誤りや脱落もあるかと思われます。しかし、この「年表」をタタキ台として今後より正確で豊富な年表が出来ればと思い、不十分ながらもあえて刊行するものです。

また、一つ一つ名をあげませんが、参考にさせていただいた文献の関係者の方々にこの場を借りて感謝いたします。

昭和48年10月

狭山市教育委員会社会教育課

全 県 ・ 全 国 的 事 項	西 暦 年 号	現 狹 山 市 城 ・ 入 間 地 区 事 項
	縄 文 時 代	・ 入間川両岸台地上に宮地遺跡など縄文遺跡多数あり
○ 倭奴国王金印を授く	57	
・ 日本武尊東征	107	
○ 倭国女王卑弥呼を共立	3世紀初め	
○ 百済・新羅を征服する	391	・ 入間川両岸台地上に古墳群あり
○ 仏教、百済より伝わる	538(欽明 7)	
○ 任那の日本府はろふ	562(欽明 23)	
○ 聖徳太子摂政となる	593(推古 1)	
○ 遣唐使開始	630(舒明 2)	
○ 大化改新	645(大化 1)	
・ 百済帰化人 2 千余人を東国にうつす	666(天智 5)	
○ 壬申の乱	672(弘文 1)	
・ 新羅帰化人 2 2 人を武蔵におく	687(持統 1)	
○ 大宝律令成る	701(大宝 1)	
	703(大宝 3)	○ 従五位下高麗若光に王姓を賜う〔統紀〕
・ 秩父より和銅を献上	708(慶雲 5)	
○ 平城京遷都	710(和銅 3)	
○ 「古事記」を撰上	712(和銅 5)	
	716(靈龜 2)	○ 駿河等 7 国の高麗人 1 7 9 9 人を武蔵に遷し、はじめて高麗郡を置く〔統紀〕

○「日本書紀」なる	720(養老 4)	・この頃、万葉集巻14に「入間道の大家が原のいはる蔓ひかばぬるぬる吾にな絶えそね」の相聞歌あり
	741(天平 3)	○武蔵国分寺建立、比企亀井・入間小谷田などで国分寺瓦を焼く〔統紀〕
○大仏開眼	749(天平感宝 1)	
・武蔵から防人出発	755(天平勝宝 7)	
・帰化人・新羅人など74人	758(天平宝字 2)	
人を武蔵に移して新羅郡を置く		
	768(神護景雲 2)	○正六位上勲五等物部直広成等6人に入間宿禰を賜姓す〔統紀〕
	769(神護景雲 3)	○入間郡の人大伴部直赤男が西大寺に財物を施入〔統紀〕
	788(延暦 7)	○広成を征東副使に任ずる〔統紀〕
○平安京遷都	794(延暦 13)	
○「続日本紀」完成	797(延暦 16)	
・征夷大將軍坂上田村麿は比企郡履江峠に軍兵を駐屯		
○最澄・空海が唐に留学	804(延暦 23)	○この頃白髭神社各地に建てられる
	806(大銅 1)	○三芳野天神このころ造られる
	807(大銅 2)	・滝音山泊山寺(笹井観音堂)この頃建立されたか〔新記〕
	833(天長 10)	○多磨(摩)・入間両郡界に悲田処を置く〔統後紀〕
	838(承和 5)	・梅宮神社、山背国より分祀〔同社由緒記〕
○承和の変	842(承和 9)	
	850(嘉承 3)	・広瀬神社、官幣社に列す〔文徳実録〕
○良房、摂政となる	858(天安 2)	
・武蔵国に検非違使を置く	861(貞観 3)	

全県・全国的事項	西暦年号	現狹山市域・入間地区事項
○遣唐使廃止	894(寛平 6)	
○延喜式を撰上する	927(延長 5)	・この頃の住居跡に今宿遺跡あり
○藤原秀郷・平貞盛等、平将門の乱を鎮める	939(天慶 2)	
○藤原純友の乱	(天暦年間)	・佐平治なるもの入間川の南岸に沿い荒地を開き居を定むという記録あり〔村譜考・郡誌〕
	1000(長保 2)	・枕草子「堀兼の井」とりあげらる
	1006(冠弘 3)	・大鷲(奥富)白鬚神社創建〔亀井神社由緒記〕
○藤原道長が摂政に就任	1016(長和 5)	
○白河上皇が院政を開始	1086(応徳 3)	
○源義家武蔵国司となる	1108(天仁 1)	
○天皇、平清盛・源義朝等に命じて白河殿を襲撃する(保元の乱)	1156(保元 1)	
○平治の乱	1159(平治 1)	
	1160(永暦 1)	○この頃川越地方に荘園が河越氏によって開かれる
○平清盛を太政大臣に任ずる	1167(仁安 2)	
○清盛、法皇の院政を停止し鳥羽殿に幽閉する	1179(治承 3)	
○木曾義仲、信濃に挙兵	1180(治承 4)	○畠山重忠・熊谷直実・河越重頼・毛呂季光・金子家忠・比企能員など源氏に加勢し戦功
○諸国に守護地頭を設置		

	1184(寿永 3)	・入間川は既に部落をなし山田郷三芳野里という〔村譜考・郡誌〕。現市域は山田郷と広瀬郷 ・清水冠者(木曾義高)入間川にて堀藤次親家の為に誅される〔吾妻鏡〕 ○河越重頼女、義経に嫁するため上京する〔吾妻鏡〕
○壇の浦の戦、平氏が敗滅	1185(元暦 1)	
	1189(文治 5)	・畠山重忠の従軍に柏原太郎なる者あり〔新記〕
○源頼朝、鎌倉幕府を開く	1192(建久 3)	
	1193(建久 4)	○頼朝、入間野にて追鳥狩を行う〔吾妻鏡、郡誌〕
○公暁、鶴岡八幡宮で実朝を殺害。北条義時等公暁を殺害する	1219(建保 6)	
○承久の変	1221(承久 3)	
○貞永式目制定	1232(貞永 1)	
○蒙古兵来襲(文永の役)	1274(文永 11)	
	1301(正安 3)	○喜多院関東天台宗の本山として勅許あり
○院政停止、天皇親政	1321(元亨 1)	
○幕府、後醍醐天皇を隠岐に配流	1332(正慶 元弘 1 2)	・金子十郎家忠の子孫金子国重が三ッ木を開拓か〔ほり〕
○新田義貞上野に挙兵し鎌倉を陥す。北条氏・鎌倉幕府滅亡	1333(正慶 元弘 2 3)	・鎌倉勢と新田勢、小手指原で合戦する。勝敗決せず義貞は入間川に布陣する。また「義貞、堀金をさして引退く」とあり〔太平記〕
○建武中興	1334(建武 1)	

全県・全国的事項	西 暦 年 号	現狭山市域・入間地区事項
○義貞、足利尊氏を鎌倉に攻める	1335(建武 2)	○北条時行、女影原小手指原で足利直義軍を破る(中先代の乱)
○建武式目	1336(建武 3 延元 1)	
○尊氏、室町幕府を開く	1338(建武 5 延元 3)	
	1352(勸応 3 正平 7)	・宗良親王・新田義宗等、尊氏と小手指原・入間河原・高麗原に戦い敗る(太平記)
	1353(文和 2 正平 8)	・足利基氏、鎌倉を出て入間川に布陣、入間川殿と号す(鎌倉九代後記)
	1358(延文 3 正平 13)	・足利基氏、新田義興を武蔵矢口渡に討つ。これに先立ち入間川に義興滞陣(太平記)
		・奥留郷大匠重光、笹井観音堂に仏像を寄進する(仏像銘)
	1359(延文 4 正平 14)	・基氏入間川の陣所を出発、京の義詮に会う。これより鎌倉に引払うか(県史)
	1363(貞治 2 正平 18)	○基氏、高麗経堂に高麗郡内の年貢帖絹代を完済させる(町田文書)
	1368(応安 1 正平 23)	○河越次郎高重、河越館に立てこもり鎌倉管領に反く。河越氏敗れ伊勢に走る
○義満が幕府を室町に移す	1378(永和 4 天授 4)	
○南北朝の合一成る	1392(明德 3 元中 9)	
	1397(応永 4)	○足利氏満、武蔵北野天満社に山口郷を寄進する(武州文書)

	1409(応永 16)	○入間郡二本木村寿昌寺、開山性珍禪師が没す〔新記〕
	1416(応永 23)	・執事上杉氏憲(禪宗)の子憲方、管領足利持氏持仲方の江戸・豊島・二階堂等の兵と入間川で戦い敗退する(入間川合戦)〔鎌倉大草紙〕 ・子の神勝口の銘入間郷云々とある〔新記〕 ・江戸・豊島・南一揆等左馬守として入間川に陣す〔三島文書〕
	1417(応永 24)	・管領持氏駿河国に入り幕府の援軍入間川に討入る。 ・加佐志このころ開拓か〔由緒書之事〕
	1426(応永 33)	・梅宮神社の門口に「武州入東郡奥留郷」とあり
○徳政一揆	1428(正長 1)	・慈眼寺創立〔新記〕
○近江馬借一揆	1433(永享 5)	
	1438(永享 10)	・上杉憲美・足利持氏を入間川に破り、上杉氏が関東管領の実権を握る〔鎌倉管領九代記〕
	1440(永享 12)	・上杉清方、長尾景仲を入間川に遣わし春王・安王を討つ〔鎌倉九代後記〕
・上杉持朝家臣太田道灌江戸城・川越城を築く	1457(康正 3)	
○応仁の乱勃発	1467(文正 2)	
	1469(文明 1)	○太田道真、宗祇、心敬等と川越で連歌会を開く〔河越千句〕

全県・全国的事項	西 暦 年 号	現狹山市域・入間地区事項
○山城国一揆	1485(文明17) 1486(文明18)	・聖護院道興准后、笹井観音堂へ滞在、この時笹井白鬚神社を再建〔入間神社史〕
○加賀の一向一揆起る	1488(長享2) 1495(明応4) 1496(明応5) 1498(明応7) 1505(永正2)	○足利政氏、武蔵高倉に着陣〔和漢合図〕 ・上杉顕定、政氏を奉じ武蔵柏原に陣して上杉朝良を討つー柏原合戦〔和漢合図〕 ・明光寺開山山明光寂〔新記〕 ・長栄寺開山法印有重没す〔町誌〕
	1533(天文2) 1537(天文6)	・徳林寺開山の一樹存松寂〔同寺文書〕 開基は小沢主税 ・北条氏綱三ツ木に陣す〔北条九代後記〕 川越城北条氏のものとなる
○鉄砲伝来	1543(天文12) 1545(天文14) 1546(天文15)	・上杉城(城山砦)にて北条氏康と夜戦あり〔北条九代後記〕 ・上杉憲政・朝定は柏原に押しよせ川越城の北条綱成を攻めた〔新記〕 ○氏康8千余騎を卒し武州入間川の辺砂窪に出張〔関八州〕川越城を包囲していた上杉朝定を攻めて松山城も陥すー川越夜戦
○フランススコザビエル鹿 児島上陸	1549(天文18)	

○織田信長、今川義元を桶狭間に討破る	1560(永祿 3)	・尊榮下奥富広福寺開山〔新記〕
○長尾景虎関東管領となる	1561(永祿 4)	・田中の百姓強制帰農を鉢形北条より命じられる〔平本氏村史〕
	1563(永祿 6)	・岩槻城主太田資正、牛村助十郎に命じ入間川の堤防を築かせる〔牛村文書〕
	1564(永祿 7)	○武田信玄、北条氏康ら松山城をおとす ・北条氏政、臨時に入間川の諸役を免除する〔埼玉史〕
○織田信長、足利義昭を擁し入京する	1568(永祿 11)	・この頃及兵革絶なる時なく冠戦之術と相成り兵火の為神社仏宇焼失〔八幡神社正徳二年書上げ〕
○信長延暦寺を焼く	1571(元亀 2)	
○信長義昭を追放、室町幕府滅亡	1573(元亀 4)	
○上杉憲盛、北条氏に降り北条氏の覇権確立	1575(天正 3)	
○信長と家康、武田勝頼を長篠に破る		
○安土城へ信長移居する	1576(天正 4)	
○本能寺の変	1582(天正 10)	
○秀吉、柴田勝家を賤ヶ嶽に破る	1583(天正 11)	
	1584(天正 12)	・聖護院道澄、武蔵佐々井の観音堂入東郡宮寺の年中行事職を安堵する〔篠井文書〕
○聚落第完成	1587(天正 15)	
○秀吉、刀狩	1588(天正 16)	・北条氏照、篠井家の観音堂、杉本坊等の山伏に命じ軍役に就かせる〔篠井文書〕 ○天海、川越喜多院に入る〔天正日記〕

全 県 ・ 全 国 的 事 項	西 暦 年 号	現 狭 山 市 域 ・ 入 間 地 区 事 項
○小田原北条氏滅亡 ・家康江戸へ入り、県内要地に重臣を封ずる	1590(天正18)	○前田利家、小手指村北野神社栗原伊賀守に武州神職司を安堵し天下安全の祈願を行わせる〔武州文書〕 ・高麗郡柏原村白鬚神社に同所鋳物師神田宮内が十一面観音懸仏を奉納する〔新記〕
	1591(天正19)	・柏原などで検地あり〔新記〕 ・笹井観音堂10石、根岸明光寺5石の朱印を賜る〔新記〕
	1594(文祿3)	・天岑寺開山、天海盛吞による。開創は小笠原太郎左衛門安勝〔同寺文書〕 ・この頃細貫庄左エ門入間川にきて事業をおこす〔町誌〕
	1597(慶長2)	・入曾御嶽社10石の朱印を賜る〔新記〕
○関ヶ原の戦で東軍が大勝	1600(慶長5)	・綿貫家先祖、天翁良真居士死す〔墓石〕 ・この頃、小野主計しばらく入間川に住す〔新記〕
	1601(慶長6)	○家康は忍・川越辺に放鷹する〔当代記〕
	1602(慶長7)	○高麗郡大谷沢の検地〔金井家文書〕 ・代官属地を割き小野真次郎100石を領す〔村誌〕
○家康は征夷大將軍となり江戸幕府を開く	1603(慶長8)	○幕府は関東郷中に高札を建て代官・領主百姓などの分限を定める〔令条秘録1〕
	1606(慶長11)	○高麗郡上直竹村の八王子石灰が江戸城修築の御用石灰となる〔県史5〕
	1609(慶長14)	・入西郡越生の山本坊の先達職・笹井の観音堂及び深谷の大沼坊の年中行事職を京都聖護院より従来通り安堵される。又笹井観音堂と大塚の十玉坊が争論〔篠井家文書〕

○幕府はキリスト教を禁ず ○大阪夏の陣、豊臣氏滅亡 ○武家諸法度制定	1613(慶長18) 1614(慶長19) 1615(慶長20)	・上奥富瑞光寺僧14世広海寂〔新記〕
	1625(寛永2) 1627(寛永4)	○家光は老中酒井忠勝(深谷城主)に命じ川越三芳野神社々殿を造営 ・村越清次郎200石、杉浦内蔵允220石采邑となる〔村誌〕
	1633(寛永10)	○尾張候はじめて所沢・野老沢に鷹狩〔所沢市史〕
○島原の乱	1637(寛永14)	・このころ柏原の農民五郎兵衛、柏原新田を開拓か〔新記〕
	1638(寛永15)	○川越城下に大火、喜多院・東照宮社殿等を類焼〔大猷院実紀〕
○鎖国	1639(寛永16)	・所沢市祭に入間川より3人の名見える〔所沢文書〕
	1642(寛永19)	・この頃笹井囃子、信綱の上覧を賜る ○高麗郡宅貫(入間市)の領主中山備前守信吉没す〔寛永家譜〕
○慶安の御触書	1649(慶安2)	・八幡宮牛頭天王成円寺計10石、慈眼寺10石の朱印を賜う〔町誌・新記〕 ○入間郡の川越領以外の29ヶ村が川越領の秣場野に野銭を納め所属領域を定める〔県史5〕
	1650(慶安3)	・伊豆守、貢米完納の記念として奥留を奥富と改称〔梅宮由緒記2〕 ・川越城主信綱、堀兼神社(浅間社)を再建〔同社伝〕 ・信綱、上奥富村名主次男志村次郎兵衛に堀兼地方9ヶ村開拓の割元を申付け〔ほり〕

全県・全国的事項	西暦年号	現狹山市域・入間地区事項
○寛文の検地	1651(慶安 4)	・天岑寺15石の朱印を賜う〔町誌〕
	1652(承応 1)	・松平伊豆守赤間川を拓く〔郡誌〕
	1653(承応 2)	○信綱は領内の新座郡野火止の土地を開拓させる〔榎本弥左衛門覚書〕
	1663(寛文 3)	○松平輝綱、父信綱の遺志により岩槻平林寺を野火止にうつす〔新記〕
	1664(寛文 4)	○川越の上新河岸開設〔遠藤家文書〕新河岸川舟運本格化
	1665(寛文 5)	・中仙道に助郷制度がしかれ、狹山の地からもかり出される〔町誌〕
	1668(寛文 8)	
	1680(延宝 8)	○川越城主松平信輝は芳野村において別に直通の河道を開きくし入間川を荒川に流す〔県史5〕
	1681(元和 1)	・徳林寺本尊釈迦如来像修理〔同寺文書〕
	1682(元和 2)	・江戸大火に際し秩父・比企・入間から西川材運ばる〔県史5〕入間川に筏宿あり
○生類憐みの令出る	1687(貞享 4)	○高麗陣屋が廃止される〔新記〕
	1689(元祿 2)	・綿貫家の助力により徳林寺聖観音菩薩再造〔同寺文書〕
	1690(元祿 3)	・広瀬村入間川及び鵜木との水除堤訴訟〔町誌〕
	1694(元祿 7)	○新川越城主柳沢出羽守保明は家臣曾根権太夫貞刻に三富新田の開発を命ずる〔三富開拓誌〕
	1697(元祿10)	・成円寺類焼古記録焼失〔八幡神社文書〕

○富士山噴火、関東に降灰	1701(元禄14)	・奥富端光寺末寺の円照寺を堀兼に移しのち光英寺と改称〔郡誌〕
	1702(元禄15)	・成円寺辰恵の大船若経第1巻成る
	1704(宝永1)	・川越城主秋元、高山伝衛門に命じ狭山地方に柿を植えさせる〔埼玉史談〕
	1707(宝永4)	
○幕府は諸国の郡名の誤り(入西・入東など)を正す	1708(宝永5)	・川越城主秋元喬知は臣岩田彦助に命じ堀兼の井を修理し石柵をつくる〔武江年表〕
	1711(正徳2)	・宗源宣旨正一位八幡宮〔八幡神社文書〕
	1712(正徳3)	・この頃入間川、神楽・獅子舞・相撲さかんなり〔榎島昭武氏記録〕
	1716(享保1)	
○享保の改革 ○幕府は足立・新座・入間高麗・埼玉・葛飾の諸郡を御留場とすることを代官に命ず	1718(享保3)	○川越南部に大火あり、大工町に防火用の火除地をつくる〔泉史5〕
	1729(享保14)	・入間郡幕領下奥富村の百姓が名主の非政を愁訴する〔角川版一揆年表〕
	1731(享保16)	○新河岸に沿う各河岸の間屋株が川越藩の保護のもとに公認される〔斉藤文書〕
	1739(天文4)	・田中の安隠寺草創海峯寂す〔新記〕
○青木昆陽は武蔵・相模・遠江などの古文書を採訪する	1742(寛保2)	・大雨で未曾有の大洪水、入間川も氾濫〔武江年表〕
	1751(宝暦1)	○入間郡南永井(所沢市)の名主弥右衛門が上総から種蒔入手、甘藷栽培を始める〔吉田家文書〕 ・この頃、峯の東西寺開基〔東西寺文書〕

全県・全国的事項	西 暦 年 号	現狹山市域・入間地区事項
	1753(宝暦 3)	・柏原西浄寺中興開山高建比丘寂〔新記〕
	1758(宝暦 8)	・同年号入りの入曾獅子舞懸額あり
	1759(宝暦 9)	・徳林寺本堂等新築〔棟札〕 ・七曲井大改修〔宮野家文書〕
	1760(宝暦10)	・綿貫夏右衛門滋貞、徳林寺本堂を造立 〔同寺棟札〕
	1765(明和 2)	・上州・武州の百姓、入間郡一帯の名主 宅を打ちこわし。綿貫家(入間川)、 柏原、広瀬等をおそう一伝馬騒動 〔町誌〕
	1767(明和 4)	・松平大和守、奥富入間川に築堤〔新記〕
	1769(明和 6)	・峯の東西寺開山道一如月寂す〔新記〕
	1775(安永 4)	○平賀源内は伊豆の炭山師山本文野右衛 門とはかり秩父で木炭を焼くことを幕 府に出願する〔岩田家文書〕 ○新河岸川五河岸株仲間結成される
○幕府は農民が江戸へ奉公 稼に出ることを禁止	1777(安永 6)	
○浅間山噴火、火山灰のため 農作物全滅	1780(安永10)	・菅原橋の供養塔建立〔町誌〕
	1783(天明 3)	○この頃、大飢饉大水害のため青梅行の 馬は丸俵を運搬することを禁止〔奥富 村史稿〕
○寛政の改革	1789(寛政 1)	
	1790(寛政 2)	・生越道々標建立〔道標銘〕
	1792(寛政 4)	○入間郡旗本領新堀村(坂戸町)で一揆 が起る〔諸処刑調書〕

○幕府は宿駅の旅籠屋の飯盛女に対する取締りを強化	1794(寛政 6)	
	1796(寛政 8)	○川越藩は領内に布達して村々に郷倉を置かしめる〔川越の藩政〕
	1801(享和 1)	○川越鍛冶町の名主中島孝昌は三芳野名勝図会を著わす〔川越年表〕
	1802(享和 2)	・八幡神社本殿再建〔町誌〕
	1805(文化 2)	・広福寺山門完成〔同寺文書〕
	1808(文化 5)	○初めて飯能村で絹織物の街道売買を行う〔県蚕糸業史〕
	1815(文化 12)	○齊藤鶴磯、地誌「武蔵野話」を刊行
	1820(文政 3)	○幕府は川越城主松平大和守蕭典に相模三浦沿岸防備を命ずる
		・新編武蔵風土記稿入間郡の部完成、各村の軒数は次のとおり
		入間川 396 田中・沢 19 中新田 36 三ツ木 37 加佐志 40 青 柳 30 上奥富 118 下奥富 226 大 鷲 49 柏原新田 7 柏 原 244 笹 井 127 根 岸 33 上広瀬 130 下広瀬 50 計 1542軒

全県・全国的事項	西 暦 年 号	現狭山市域・入間地区事項
○異国船打払令を出す ・新編武蔵風土記稿本県分なる、武蔵国人口171万7455人、県内総村数2017ヶ村、神社数7380社寺院数3791寺 ○幕府は諸国の石高を寺社領に至るまで調査する (埼玉県分87万2443石)	1824(文政 7) 1825(文政 8) 1827(文政10) 1828(文政11) 1831(天保 2) 1832(天保 3) 1833(天保 4) 1834(天保 5) 1839(天保10)	(北入曾・南入曾・水野・堀金・上赤坂は不明) ただし文政5年の豊田文書には、入間川村180軒余で峯組、鵜の木組、内手組、清水組、沢組、入間川上下組に分れるとあり ・八雲神社建立〔本殿棟札〕 ・清水浜臣、江戸にて没〔墓銘〕 ○川越杉原町栄林寺より出火、700余戸焼失〔県史6〕 ○川越城主松平大和守齋典は藩校を開き博喩堂の額を掲げる〔県史6〕 ○この頃、宮寺村の村野盛政、吉川温泰製茶法を改良し狭山茶の基礎を築く ・高麗郡中山村より篠井観音堂へ入間川渡船に關しての許可願を出す〔中山村記録〕 ○飯能焼が双木清吉等の手によって始められる〔飯能郷土史〕 ・成田不動尊請成(綿貫忠道)市神様建立〔町誌〕 ○藩主おかかえ絵師橋本家に雅邦誕生〔川越年表〕 ○荒川堤普請をめぐる負騒動起り農民川越城下に迫る〔川越藩日記〕

○幕府農民がみだりに商業等に従事することを禁止 翌年、富士講などを禁止	1841(天保12)	
○天保の改革		
○幕府人返し令を出す	1843(天保14)	
	1844(弘化1)	○川越藩「川越藩日本外史」を儒臣保岡領南に命じ校訂させる〔川越年表〕
	1845(弘化2)	・入間川と広瀬との入会地をめぐる境争い訴訟〔町誌〕
	1846(弘化3)	○狭山茶の元祖吉川温恭没す〔墓銘〕 ・入間川地先見取場畑地を水田にし赤間川用水不足のため畑に再転の届田中村よりあり〔大野文書〕
	1847(弘化4)	・入間川筋新開田畑についての出入訴訟あり、また赤間川水車の記事あり〔町誌〕 ○幕府は忍、川越藩などに房総の警備を命ずる〔川越年表〕
	1850(嘉永3)	・日光法要に伴う鳩谷宿助郷御免除願提出〔豊田文書〕
	1852(嘉永5)	・赤間川用水干ばつの届を地頭へ出すー田中村、清水組、峯組〔大野文書〕
○ペリー来航	1853(嘉永6)	・梅宮神社焼失〔同社由緒記2〕
○日米和親条約調印	1854(嘉永7)	○川越藩新河岸川筋問屋へ非常時の出仕準備命じる〔遠藤文書〕
	1856(安政3)	・八幡神社別当成円寺〔修験〕梵鐘古来より時の鐘に使用される〔同社文書〕
	1857(安政4)	・梅宮神社再建〔同社由緒記2〕
	1858(安政5)	・田畑の質入売買についての禁令〔豊田文書〕
○日米通商条約調印	1860(安政7)	○三ヶ島村の茶師志村善次郎が英人への茶売渡代金未払いに関する訴訟を起す〔県史6〕

全県・全国的事項	西 暦 年 号	現狹山市域・入間地区事項
		○婚姻妨害禁止廻状扇町屋の総代よりある〔豊田文書〕 ○関東御取締役より酒造に関する取調べがある〔豊田文書〕
	1861(元延 2)	
	1861(文久 1)	・入間川より広瀬分へ堰設置についての申入れ、広瀬領主不承知〔町誌〕 ・勤王の志士西川練造〔川越小仙波出身の医師、同年江戸で獄死〕清川八郎ら広福寺山門において倒幕の密議〔狹山の文化財1〕
○和宮、将軍家茂と婚礼	1862(文久 2)	
○薩英戦争おこる	1863(文久 3)	
○四国連合艦隊下関砲撃	1864(元治 1)	
	1865(慶応 1)	・慈眼寺焼失〔小沢文書〕
○第二次長州征伐	1866(慶応 2)	○米価騰貴による名栗騒動〔打ちこわし〕始まる、綿貫家で昼食〔平本文書〕 ○川越領砂久保村外14ヶ村で農民新設に反対する強訴〔県史6〕
○大政奉還、王政復古の大号令	1867(慶応 3)	○関東の村々にある御三家鷹場廃止〔御達留44〕 ・入間川村より官軍御用と加助御承書を江川太郎左衛門に提出〔豊田文書〕 ・綿貫家「卯年店卸勘定書」に酒井雅楽頭金24万5千両などあり〔町誌〕
○鳥羽伏見の戦	1868(慶応 4)	○振武軍飯能戦争に敗れる、4ヶ寺焼失〔飯能郷土史〕
○五ヶ条の御誓文	1868(明治 1)	○入間の飛白織物業者は山口村藤田屋にて織賃率を約束する〔県史7〕 ・政体書を制定ー狹山市域は主に川越藩と武蔵県とに分れる〔県議会史1〕
○版籍奉還	1869(明治 2)	・成円寺と八幡神社分離についての議定書〔同社文書〕

○平民に氏を称することを 許す ○廃藩置県 ○身分解放令公布 ○庄屋・名主・年寄等廃止 し正副戸長を置く ○群馬県富岡製糸工場落成 ○本山外の無住持無檀家の 寺院廃止令 ○太陽暦採用を布告 ○地租改正 ・浦和に学政改正局(のち の師範学校)が設けられ る ○廃刀令を定める ・熊谷県を廃し内武蔵 13	1870(明治 3) 1871(明治 4) 1872(明治 5) 1873(明治 6) 1874(明治 7) 1875(明治 8) 1876(明治 9)	○川越藩は国産掛、生殖物産判事を置き 産業奨励を行う〔県史7〕 ○兵部省布達の兵制に基き忍・川越・岩 槻各藩は砲隊を編成〔県史7〕 ・天岑寺、惣門を残して他はすべて焼失 〔町誌〕 ○川越藩を廃止し現在の県域西部一帯に 入間県を設置、県庁を川越町に置く (現埼玉県域は主は埼玉県と入間県に 分かれる)〔県議会史1〕 ・寺社領は品川県となる〔村誌〕 ・六斎市(市場再開)の議定書〔大野文 書〕 ・奥富西方の山車できる〔付属物銘〕 ○東京角力伊勢海一行200人飯能町主 催にて千両角力開催〔飯能郷土史〕 ○入間県は庁内に協議場を設け月2回開 場する旨布達〔県議会史1〕 ○入間県各大区ごとに会所を設置〔県議 会史1〕 ・天岑寺再建〔町誌〕 ・入間川村・田中・沢の枝村を合併〔村 誌〕 ○群馬、入間両県を併せて熊谷県を設置 県庁を熊谷宿に置く、また支庁を川越 に設置〔県議会史1〕 ○この頃入間県町村数1019〔県議会 史1〕 ・広瀬神社社界格〔県史7〕 ・入間、入曽、堀兼、奥富、柏原、笹井 広瀬学校開設される〔町誌〕 ○入間郡扇町屋、新座郡志木の茶業者の 狭山会社設立許可〔県史7〕 ○狭山会社米国ニューヨーク佐藤商店と 緑茶1000斤輸出を協約〔県商工略史〕
--	---	--

全 県 ・ 全 国 的 事 項	西 暦 年 号	現狭山市域・入間地区事項
郡を埼玉県に併合、ほぼ現在の県域定まる		・ 入間郡広瀬村の清水宗徳、県下最初の製糸工場「暢業社」を開設〔県史 7〕
・ 埼玉県下小学校数 6 4 7 校、生徒数 5 6 4 8 3 人		・ この年の人口
○ 一村一戸長制度始まる		入間川村 2 3 6 7 人
		入間地区 1 7 9 0 人
		堀兼地区 2 4 7 8 人
		奥富地区 1 9 3 5 人
		柏原地区 1 4 7 0 人
		水富地区 2 2 5 2 人
		計 1 2 2 9 2 人〔埼玉史〕
		・ 演劇場建設願を小沢吉之助氏提出〔小沢文書〕
○ 西南戦争始まる	1 8 7 7 (明 治 1 0)	
・ 最初の県会議員選挙を各郡役所所轄単位に施行する	1 8 7 9 (明 治 1 2)	○ 入間高麗郡役所川越に設置〔町誌〕
・ 県下各郵便局で貯金事務開始		○ 川越町に国立第九五銀行支店開業〔県商工略史〕
		○ 私立川越銀行の設立許可〔県商工略史〕
○ 片岡健吉、河野広中等国会開設願望書を太政官に提出	1 8 8 0 (明 治 1 3)	・ 慈眼寺再営、2 5 年振り〔小沢文書〕
○ 自由党結成、総裁板垣退助	1 8 8 1 (明 治 1 4)	
・ 不動岡・川越・秩父・大宮・羽生・忍・熊谷に町村立中学校開設		
○ 福島事件	1 8 8 2 (明 治 1 5)	○ 扇町屋、所沢間に郵便新線を設ける〔県史 7〕
○ 岩倉具視、民間政治運動の激化を恐れ府県会の中止を建議		・ 入間川郵便局の存在を証明する文書あり〔町誌〕

・高崎線上野―熊谷間竣工	1883(明治16)	・地理局依弼「入間川村々誌」成る〔町誌〕 ○近衛師団大演習で天皇、所沢・飯能へ行幸、天覧山の名おこる〔飯能郷土史〕
・秩父下吉田村で田代栄助ら困民党会合する(以後秩父事件) ○自由党解党	1884(明治17)	○豊岡町黒須に黒須高等小学校開設〔町誌〕 ・川越の絹斜子、広瀬村業者の品質改良で海外にまで「広瀬七子」の名で知られる〔県史7〕 ・慈眼寺、河原から現在の地に移転〔町誌〕 ・戸長選任は官選となり連合戸長制が敷かれる―入間川連合・北入曾連合・下赤坂連合・根岸連合など〔県史7〕
・東北線大宮―宇都宮間開通 ○内閣制度創立、初代総理に伊藤博文 ○秩父事件関係者に浦和重罪裁判所の判決下る ・埼玉自由倶楽部結成	1885(明治18)	○小仙波村の高林謙三、諸種茶業機械を発明〔川越年表〕
○東京電灯会社東京市内の配電を開始	1886(明治19)	・清水宗徳「蚕病予防所設立建白書」を埼玉県令に進達〔県蚕糸業史〕
○枢密院設置	1887(明治20)	○入間郡茶業者は茶業組合及び連合会社を設け茶質の統一を計り、茶業伝習所を各地に設立〔県史7〕
○大日本帝国憲法発布 ○市制、町村制施行 ・この頃、県下開業医666名で内漢法医530名 ・秩父銘仙さかんとなる	1888(明治21)	・赤間川水車同業組合同規約成る〔小沢文書〕 ○私立川越英和学校創立〔川越年表〕
	1889(明治22)	・町村制施行に伴い入間川村、柏原村、奥富村(上奥富・下奥富・柏原新田)、入間村(北入曾・南入曾・水野)、水富村(上広瀬・下広瀬・根岸・笹井)堀兼村(堀兼・青柳・加佐志・三ツ木上赤坂・中新田)が誕生し、従来の村名は大字となる〔県議会史2〕

全県・全国的事項	西 暦 年 号	現狭山市域・入間地区事項
・第1回衆議院議員総選挙、本県選出議員の党派別数は自由党4、改進黨2、大成会1、無所属1 ○教育勅語発布	1890(明治23)	○西川材木商組合発足〔飯能郷土史〕 ・川越馬車会社小沢市郎兵衛に譲渡される〔小沢文書〕 ・集中豪雨で入間川氾濫、各地で被害〔埼史〕 ・清水宗徳、衆院議員に当選〔宗徳伝〕
	1891(明治24)	・入間川村、町制を施行〔合併史〕 ・水富村住人10余人、北海道へ移住し空知郡奈井江村に一部落を開拓す〔宗徳伝〕
○小学校令発布により尋常小学校発足 ・この頃より織物にボタン機が利用され能率を増したが、粗製濫造の原因となる	1892(明治25)	・入間村出身の国学者田口保明(塙保己一門弟)没〔埼史〕
	1893(明治26)	○所沢銀行創立 ○この頃入間郡に自由党下部組織惟一倶楽部誠宣会あり〔県政党史〕 ○狭山茶商組合組織される〔県史7〕 ・入間川子ノ神の大火、約100戸全焼〔町誌〕
○日清戦争おこる	1894(明治27)	○川越米穀取引所開設免許となる〔県商工略史〕
○日清講和条約調印 ○三国干渉	1895(明治28)	・西武鉄道川越線国分寺ー川越間開通、所沢・入曽・入間川・川越の各駅開設〔県史7〕 ・水富尋常小学校新校舎落成〔同校沿革史〕 ・水富村の谷貞之進「蚕業専門公業館」を設立し養蚕伝習を行なう〔県蚕糸業

- 郡廃置法施行により従来の郡を統廃合し9郡とする - 東武鉄道伊勢崎線開通 - 条約改正 - 清国義和団鎮圧のため陸軍を派兵 - 八幡製鉄所操業開始 - 日英同盟調印 - 川越火力発電所から送電されて大宮町に電灯がつく - 政府の府県統廃合計画、本県の東京合併に反対し埼玉廃県反対同盟会を結成、全県運動とする - 日露戦争おこる	1896(明治29) 1897(明治30) 1898(明治31) 1899(明治32) 1900(明治33) 1901(明治34) 1902(明治35) 1903(明治36) 1904(明治37)	史) - 大宮一川越間に乗合馬車開通〔大宮市史〕 - 出水により荒川・入間川・越辺川・高麗川流域被害甚大〔県議会史2〕 - 県会は豊岡・入曽道新開補助を可決〔県議会史2〕 - 第1回郡会議員選挙おこなわれる - 南大塚駅開設〔県史7〕 - 第三尋常中学校(現川越高校)設置される〔県報〕 - 武蔵銀行が飯能町に設立される〔県史7〕 - 所沢の白井要助は共立英和学舎(現所沢高校)を設立、県下初の商業教育を行う - 組合立入間川高等小学校開校〔町誌〕 - 入間郡下農民1000名、荒川対岸堤防取崩請願のため県庁へ押しかけ解散を命ぜられる〔県労働史〕 - 入間馬車鉄道入間川―飯能間、中武馬車鉄道入間川―青梅間あい次で運行を開始〔県史7〕 - 入間川高等小学校校舎落成〔町誌〕 - 飯能町に飯能銀行設立〔県史7〕 - 県重要物産陳列館を川越に設立〔県商工略史〕 - 川越・入間川など県下13駅に取締巡查を配置〔県史7〕 - 堀兼尋常高等小学校校舎新築〔ほり〕 - 川越町電話所開設〔県史7〕
---	---	--

全 県 ・ 全 国 的 事 項	西 暦 年 号	現 狭 山 市 域 ・ 入 間 地 区 事 項
・ 蚕病予防法 発布され、浦和・川越・秩父・熊谷等に予防事務所を設置 ○ ポーツマス条約調印 ○ 小学校令改正され尋常小学校義務教育 6 ケ年とし高等小学校 2 ケ年とす ○ 大逆事件、幸徳秋水逮捕 ○ 韓国併合	1905 (明治 38)	・ 田島屋堰創設者、田島菊次郎没〔田島文書〕 ・ 彫刻師甲田了作没、入曾獅子頭・慈眼寺山門・所沢本町山車等の作品あり
	1906 (明治 39)	○ 川越電気鉄道川越一大宮間開通〔県史 7〕
	1907 (明治 40)	○ 川越染色学校(現川越工業高校)を設置〔川越年表〕
	1908 (明治 41)	○ 川越の埼玉和協会は付属事業として点字機を購入し盲人教育を始める〔川越年表〕
	1909 (明治 42)	○ 川越一松山道の落合橋架設される〔県史 7〕 ○ 川越町で関東茶業者大会開催〔県商工略史〕
	1910 (明治 43)	○ 所沢町織物品評会開催〔県商工略史〕 ・ この年の人口 - 入間川町 6113人 - 入間村 2597人 - 堀兼村 3685人 - 奥富村 2837人 - 柏原村 2192人 - 水富村 3314人 - 計 20738人〔埼玉史〕 ○ 所沢に陸軍気球研究会所沢飛行試験場創設〔県史 7〕

	1911 (明治 44)	・集中豪雨のため入間川・不老川氾濫、各地で被害でる (関東大洪水、県下死者 324 名)〔ほり〕 ・堀兼に養蚕組合できる〔ほり〕 ○黒須久保田堰より引水条約決る (小沢文書) ○川越高等女学校 (現川女高) 設置される (川越年表)
○鈴木文治ら友愛会創立	1912 (大正 1)	○陸軍特別大演習が川越地方で行われ天皇行幸 (県史 7)
	1913 (大正 2)	○川越渡辺銀行設立される
		・夏の豪雨で入間川・荒川・都幾川筋氾濫 (県議会史 3)
○ドイツに宣戦布告、第 1 次世界大戦参戦	1914 (大正 3)	○東上鉄道 (現東武東上線) 池袋 - 川越間開通、川越・鶴瀬駅など開設 (県史 7)
	1915 (大正 4)	・入間川尋常高等小学校開校 (町誌) ・入間川町役場新築、約 $142m^2$ (町誌) ○武蔵野鉄道 (現西武鉄道) 池袋 - 飯能間開通、西所沢・狭山ヶ丘・豊岡・仏子・飯能の各駅開設 (県史 7) ・堀兼村で耕地整理事業に着手 (ほり)
	1916 (大正 5)	○所沢実科高等女学校 (現所沢高校) 開校 ○東上線、霞ヶ関・坂戸駅開設 (県史 7) ・鶴の木で製氷業開始される (町誌) ・入間馬車鉄道・中武馬車鉄道廃止される (町誌)
・川越自動車合資会社、川越 - 所沢 - 田無 - 日本橋間の乗合バス運行認可	1917 (大正 6)	○武蔵野線黒須駅開設 (県史 7)
○シベリア出兵宣言	1918 (大正 7)	○武蔵野線元加治駅開設 (県史 7)
○米騒動勃発		
○スペイン風邪 (インフルエンザ) 大流行、死者全		

全県・全国的事項	西 暦 年 号	現狭山市域・入間地区事項
国で15万人 ・米騒動を機会に財団法人埼玉共済会が設立され、各種社会事業を行う ・県下の小学校教員、下中弥三郎を中心に全国初の教員組合啓明会発足 ○戦後恐慌 ・第1回国勢調査、県下人口131万9533人 ○全国普通選挙期同盟会結成される ○国際連盟に加盟 ○第1回メーデー開かれる ○郡制廃止となる ○全国水平社創立大会 ○日本農民組合結成 ○日本労働組合総連合結成	1919(大正 8) 1920(大正 9) 1921(大正10) 1922(大正11) 1923(大正12)	○所沢飛行試験場を陸軍航空学校と改称〔県史7〕 ・有限責任入間川町信用購買販売組合設立〔町誌〕 ○川越一越生道に入間川雁見橋竣工〔県史7〕 ○県立川越蚕業学校(現川越農高)を設置〔県報〕 ○組合立豊岡農業学校(現豊岡高校)創立 ○川越で第5回全国製茶品評会開かれる〔県商工略史〕 ○飯能一名栗間乗合バス運行認可〔県史7〕 ・入間村立入間図書館設立される ・所沢警察署警部補派出所が現市役所の位置に設置〔町誌〕 ○組合立飯能実科高等女学校(現飯能高校)開校 ○川越武州紡績で賃下げ反対争議〔県労働史〕 ○川越市制施行、人口2万6千人〔県史7〕 ○県営砂利採取事務所を設け、荒川・入間川より採取〔県史7〕

・浦和町に県立図書館創立 ・本年発生県下小作争議48件、関係地主838人小作人3796人 ・県体育協会設立 ○治安維持法公布 ○普通選挙法成立 ○東京放送局本放送開始 ・農民自治会埼玉県連合会結成 ○金融恐慌勃発 ○3・15事件	1924(大正13) 1925(大正14) 1926(大正15) 1927(昭和2) 1928(昭和3) 1929(昭和4) 1930(昭和5)	○川越会館で日本農民組合関東同盟の演説会〔県労働史〕 ○東上線寄居まで全通〔県史7〕 ・諸口乗合自動車川越ー入間間にバスを運行〔ほり〕 ○川越商業学校(現市川越商高)設立認可 ○武蔵野線、武蔵藤沢駅開設〔県史7〕 ○川越医師会、県下初の産院設置〔県史7〕 ○西武鉄道に乗合バス川越ー大宮間など運行認可〔県史7〕 ○仏子村に平仙レースKK工場設立〔県史7〕 ○西武鉄道高田馬場ー東村山間開通 ○金融恐慌のため渡辺銀行等休業 ○豊岡町に県立茶業研究所設置〔県報〕 ・集中豪雨で入間川氾濫、各地に関東大洪水以来の被害〔県議会史4〕 ○越生ー坂戸間の越生鉄道設立〔県史7〕 ○武蔵野鉄道村山貯水池線開通、また飯能ー吾野間開通〔県史7〕 ・入間川町に農事試験場入間川園芸部を設置〔県報〕 ○川越で県主催国産品輸入品対比展覧会を開く〔県商工略史〕 ○川越の訓盲学院、埼玉盲学校と改称する
--	---	---

全県・全国的事項	西 暦 年 号	現狭山市域・入間地区事項
・日本農民組合埼玉県連合会結成 ○満州事変 ・西埼玉地震、県西北部に被害 ・県会で壮丁検査の結果、本県の体位は全国下から二番目と報告 ○満州国建国 ○5・15事件 ・東北線大宮まで電化完成 ○国際連盟脱退	1931(昭和 6) 1932(昭和 7) 1933(昭和 8) 1934(昭和 9) 1935(昭和10) 1936(昭和11) 1937(昭和12) 1938(昭和13)	○武蔵野線天覧山駅、八高線金子・東飯能両駅開設〔県史7〕 ○新河岸川舟運に通船停止の県令出る〔川越年表〕 ○東上線鶴ヶ島駅開設〔県史7〕 ○飯能絹織物工業組合、飯能町上水道できる〔飯能郷土史〕 ・武蔵野線稲荷山公園駅開設〔県史7〕 ○八高線高麗川・毛呂・越生各駅開設〔県史7〕 ○川越織物工業組合成立〔県史7〕 ○山口貯水池完成 ○入間川筋の砂利採取反対で川越辺の農民100名県庁へ請願デモ ○東上線入間川水泳場駅開設〔県史7〕 ・堀兼信用組合不振深刻化〔ほり〕 ・八幡神社鹿子舞再興〔野坂氏稿〕 ・狭山湖完成 ○福岡村の東京陸軍造兵廠川越工場起工式〔福岡村史〕 ○県、各工業試験場を指導所と改称〔川越工業・仏子染織など〕〔県報〕 ・入曾電報電話取扱所開設〔加入電話入間・堀兼地区で12件〕〔ほり〕 ○所沢陸軍飛行学校、陸軍士官学校航空科と改められる ・陸軍航空士官学校(現入間基地)開設

○国家総動員法公布 ○ノモンハン事件勃発 ○国民徴用令 ○大政翼賛会発会 ○日独伊三国軍事同盟成立 ○米穀強制出荷令でる ・大宮市制施行	1939(昭和14)	・笹井ダム完成
○国民学校令施行 ○太平洋戦争勃発	1940(昭和15)	○国鉄川越線大宮ー川越間開通 ○耕地整理行なわれる
○米軍機東京初空襲 ○国策の徹底を図るため県会の権限を縮少 ・県師範学校は専門学校となり国立移管となる ・一県一行に即し諸銀行を統合、埼玉銀行創立 ○学徒出陣	1941(昭和16)	・赤間川改良工事に着手(18年完成) ・暴風雨のため荒川・入間川・利根川の堤防決潰〔埼史〕 ○所沢保健所設置〔県報〕 ○西武鉄道川越ー大宮間(旧川越電気鉄道)を廃止
・埼玉新聞社創立、一県一紙として発行 ○B29東京初空襲 ○広島・長崎に原爆投下 ○ポツダム宣言を受諾、無条件降伏 ○治安維持法廃止	1942(昭和17)	○人造湖の宮沢湖完成
・軍国主義者の公職追放指令により県下の官・財界	1943(昭和18)	・八幡神社大修理〔同社文書〕 ・2町7ヶ村合併(入間川町・豊岡町・入間・堀兼・奥富・柏原・水富・藤沢東金子の各村)内定し入間市と新市名も決定したが3ヶ月で流産〔町誌〕 ・入間川町銃後奉公会の実践として保育所・授産所を設ける〔町誌〕 ○高麗神社県社昇格〔県報〕 ○所沢町に健民修練所を設置〔県報〕 ○川越に保健所設置〔県報〕
	1944(昭和19)	○B29県下西南部に時限爆弾を投下〔福岡村史〕 ・B29入間川・稲荷山・笹井などを空襲、笹井で13人死亡〔県警調〕 ○鶴ヶ島村に県立農民道場を設置〔県報〕 ・陸軍航空士官学校は接收されジョンソン基地と命名
	1945(昭和20)	・菅原4丁目(現富士見)・上広瀬に引上げ者など入殖
	1946(昭和21)	

全 県 ・ 全 国 的 事 項	西 暦 年 号	現 狭 山 市 域 ・ 入 間 地 区 事 項
該当者多数追放 ○東京で食糧メーデー ○日本国憲法公布 ・県下各町村に農地委員会を設置、農地改革実施 ○2・1ゼネスト中止命令 ○教育基本法施行で6・3制男女共学発足、各町村に小・中学校設置 ・公選第1回知事選・市町村選挙並びに第1回参院選行われる ○地方自治法公布 ○農業協同組合法公布 ○自治体警察発足 ○教育委員会法公布 ・埼玉県庁全焼 ○新憲法に基く初の衆院総選挙実施 ・埼玉師範学校・浦和高等学校を廃し埼玉大学創立 ○松川事件 ○朝鮮戦争勃発 ○日本労働組合総評議会結成 ○シャウブ勸告だされる ○文化財保護法公布 ・国勢調査の結果、県人口214万6445人	1947(昭和22) 1948(昭和23) 1949(昭和24) 1950(昭和25) 1951(昭和26)	・入間川青年団等新発足〔町誌〕 ○八高線飯能付近で列車転覆、死者175名 ・キャスリン台風のため各地で被害 ・不老川・新河岸川普通水利組合結成 ・入間川町公民館設立、その後各旧村ごとにてできる〔町誌〕 ・水富婦人会・入間小PTA発会、あと次々と誕生 ・県立川越高校入間川分校開校〔町誌〕 ・養蚕組合・酪農組合・茶業協会発足〔ほり〕 ・アイオン台風、各地で被害 ・上赤坂原地区開拓開始 ・入間川町立保育所、幼稚園として新発足〔町誌〕 ・キティ台風、入間川等の河川氾濫し各地で被害 ・ハイドパークできる ・この年の人口、入間川町11963人 入間村4001人、堀兼村4239人 奥富村3096人、柏原村3280人 水富村4002人、計30583人〔埼玉史〕 ○所沢市でユネスコ子供博覧会開催

○ 民間ラジオ放送開始 ○ サンフランシスコ講和条約・日米安保条約調印 ○ 血のメーデー事件 ○ 各市町村教育委員会発足 ○ NHKテレビ本放送開始	1952(昭和27) 1953(昭和28) 1954(昭和29)	○ 金子村民家にB29墜落 ○ 入間川駅ー豊岡駅間に西武バス開通 ・ ジョンソン基地人員整理発表 ・ 入間川町立図書館開設〔町誌〕 ・ 新富士見橋起工〔町誌〕 ・ 入間川町と入間・堀兼・奥富・柏原・水富の各村合併し狭山市誕生〔町誌〕
--	---	---

註1 年表項目中のクロマル(・)は、全県・全国的事項欄では県内の事項を、現狭山市域・入間地区事項欄では市内の事項を、とくに示すためにつけてあります。シロヌキマル(○)は、一般的に全国的事項や入間地区の事項をさします。

2 年表項目末の〔〕内は、出典を示すものです。ただし、頻出するものは略号を使っています。各略号の正式出典名称は次の通りです。

紀→日本書紀 続紀→続日本紀 郡誌→入間郡誌 町誌→入間川町誌
 県史→埼玉県史 ほり→郷土誌ほりかね 新記→新編武蔵風土記稿
 埼史→埼玉史料辞典 村誌→入間川村誌

3 著名な事項であっても、史料的に不明確なものは掲載してありません。

4 各年ごとの事項配列は、基本的には月順ですが、なかには不明確なものもあります。

狭山市関係歴史略年表
(狭山市文化財調査報告Ⅳ)

編集・発行

狭山市教育委員会社会教育課
埼玉県狭山市入間川2-2-25 / ☎0429-52-6238

昭和48年11月20日発行 印刷 西川印刷